

## 野添コミュニティセンターから出発

蓮池小学校4年生の児童16名と保護者2名、引率教員2名、指導員・事務局3名で360年ほど前に新井水路を作った古宮の大庄屋であった今里傳兵衛の偉業を学んだ。用水路は加古川の大堰～播磨町古宮の大池までの約14kmに及ぶ。新井用水と書いて「しんゆようすい」と読むのだが一説によると加古川の大堰から流れ出した用水が古宮の大池に運ばれるまでにお湯になっていたということからだそうだ。

野添コミュニティセンターを8時30分に出て加古川大堰へ向かった。



## 加古川大堰

加古川大堰に着いて、大堰管理事務所の説明を聞きました。DVDによる大堰の役割や仕組みを勉強しました。洪水が起きそうなとき、微調整ゲートや調整ゲート、主ゲートはどのような働きをするか上手に説明していただきました。また、モデル実験をしていただきました。加古川の北の方でも低い土地があり浸水の恐れがあることを学びました。播磨町のハザードマップでは雨水による浸水の恐れがあるのは蓮池小校区では城地域であることが分かりそこに住む子供たちは少し驚いていました。



その後、実際に主ゲートに向かい、実物を見て説明してくださいました。説明を聞く子、ゲートをのぞき込む子自由に動きながら学習しました。大堰で遮られると魚が上流に登れなくなります。でもちゃんと鮎や鯉などが上流に行けるように魚道が作られています。この日は昨日の雨のせい或少し水量が多かったです。



<魚路>

<(取水口)←微調整ゲート→(排水口)>

<調整ゲート>

<主ゲート(400t)>

# 用水路の起点 (新井水路・五ヶ井水路)

次に水路起点へ行きました。右が五ヶ井水路で左が新井水路です。新井水路は五ヶ井水路から1/6の水量をもらっています。語り部の佐伯さんが熱心に説明してくださいました。五ヶ井水路は伝承によれば聖徳太子の頃にできたと言われているが名の由来から戦国時代には作られていたと考えられる。新井水路は360年前に作られています。



＜左が新井水路、右が五ヶ井水路＞

## 神野西 (曇川の埋樋)

神野西の埋樋(うずみび)の入口に来ました。その後埋樋の出口を見たり、旧ゲートの跡を見たりしました。



＜埋樋(うずみび)の入口＞

＜曇川＞

＜埋樋の出口＞

＜新井水路と曇川の落差20cm＞

途中で、福原さんから、逆サイホンの実験をしていただきました。川の下を水路が通り、再び上がって来て川の反対側へ水を通す仕組みです。ほんとに昔の人は良くここまで考えて作ったんだなと思いました。



＜新井水路から曇川への排水口＞

＜逆サイホンの実験(体験)＞

日岡神社で昼食を取りに降りました。神社の周りには大きな石ばかりでその石を割って新井水路ができていたのが分かりました。途中水門や洗い物をするための階段も見つけました。



＜大きな石のすぐ横に新井水路＞

＜水路の横の石＞

＜水門＞

＜洗い場への階段＞

# 大中 (喜瀬川の埋樋)

大中の埋樋(うずみび)の入口に来ました。金属の刃が突き出ている除塵機(じょじんき)の仕組みもよく分かりました。実際に水が流れているときは、刈った草やプラゴミ、ビニール魚の死骸など、いっぱいたまることがあります。水路にゴミを捨てないでほしいですね。

しん ゆう すい むず  
新井用水 「水のめぐみ」

⑦ 大中埋樋

フェンスに囲まれた見慣れない構造物がありますが、ここから新井用水が喜瀬川を過っています。用水路が川の下を通るためには、逆サイホンという技術が用いられます。

建設当初の喜瀬川のサイホン管は、松材が利用され、「埋樋」と呼ばれていました。天保元年(1830年)に石造りに変わり、昭和32~33年頃に鉄筋コンクリート造りになり現在に至っています。

五ッ井・新井掛村々漢字地図  
天保13年(西暦1842年)

埋樋の仕組み

新井用水の道

喜瀬川

史跡 新井水道の大中埋樋

江戸時代初期までの当地域(帯の田)は、雨水にたよる田がほとんどで、旱ばつの被害を度々うけていました。古宮組の大庄屋今里伝兵衛重幸(一六〇一~一六五九)は、この旱ばつ飢饉を救うため、承応三年(一六五四)十二月近隣二カ村(古宮村を加えて二カ村)の庄屋と相談し、遂に頼み出て明暦二年(一六五六)三月に新井水道を完成しました。

新井水道は、加古川の水を下西桑平松(加古川市神野町)の五カ井洗堰から分水し、古宮(播磨町)の大池まで十三km余り、動員された人夫はのべ十六万四千人という大工事でした。特にここ喜瀬川の下を埋樋(逆サイホン式暗きよ)を用いて送水する工法は、きわめて高度な技術を要したとしてしよう。最初は松材を使った樋でしたが、後に石に変えられ、現在はコンクリート製になっています。

平成元年三月  
播磨町教育委員会



# 古宮 (大池・薬師堂)

新井水路の終着点は、播磨町古宮です。加古川大堰から延々14kmの道のりです。大池には今里傳兵衛の偉業を称えて石碑が建っています。傳兵衛の墓は薬師堂の中にあります。



# しん ゆ よう すい 新井用水『水のめぐみ』



新井（しんゆ）用水は加古川市八幡町からの加古川大堰から播磨町古宮の大池まで農地へ水を送る約14kmの水路です。

新井用水の歴史は古く、1656年播磨町古宮の大庄屋今里傳兵衛が中心となって計画され、のべ16万4千人の人の努力により開通しました。

途中には河川を渡るサイホンや岩壁を削った水路などがあり、当時としては高度な土木技術が使われています。また、全線を通じて水路の高低差がほとんどなく曲がりなどを巧みに利用して水を通してあります。開通後350年以上の長きにわたり、何度も改修を重ねながら、現在でも地域の農業用水の要として豊かな水のめぐみを与え続けています。

また、新井用水は、ホテルやカフェなど加古川のめぐみを町並みに送る貴重な自然空間です。新井用水を上流から下流から歩けば約半日、季節毎ゆっくりめぐれば350年の水のめぐみを体験できるうるおい空間です。

新井用水に親しむ会・新井水利組合連合会  
平成21年5月